

大学・高専機能強化支援事業（支援 2：高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援）
【大学 ハイレベル枠】実施状況報告書

選定年度	令和5年度	学校コード	F134110109780	改題内容	研究科等の設置・増員 + 学部等の設置・増員（ハイレベル枠）
大学名	広島大学	設置区分	国立	事業計画名	広島大学 高度な学術研究や専門知識に裏打ちされた実践・開発能力を持ち、デジタル技術開発やDXの推進を力強く牽引する高度情報専門人材の育成
学域	大学	都道府県	広島県		

1. 年度別の計画及び取組状況

年度別の事業計画（上欄：研究科等の設置等及びその準備（設置認可申請等）、下欄：教育環境の整備（施設整備、教員採用等）、教育活動の充実等の取組）と取組状況及び自己評価を記載してください。

当初計画から変更又は追加した取組がある場合は取組内容を赤字で記載してください。また、計画変更申請した場合は「取組状況」に承認日を赤字で記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある等、自己評価が下位2つの場合は、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できておらず、その他課題がない場合も記載は不要です。

事業期間	事業計画	取組状況	自己評価、課題（理由）とその対応
令和5年度	【情報系組織の入学定員】<博士>10人、<修士>36人、<学士>155人 先進理工系科学研究科先進理工系科学専攻（博士課程後期） 情報科学プログラム 入学定員10人 先進理工系科学研究科先進理工系科学専攻（博士課程前期） 情報科学プログラム 入学定員36人 情報科学部情報科学科 入学定員155人（編入定員5人を含む） 3月 情報科学部情報科学科及び工学部第二類（電気電子・システム情報系） 収容定員に係る大学全体の収容定員増の申請予定	【情報系組織の入学定員】<博士>10人、<修士>36人、<学士>155人 先進理工系科学研究科先進理工系科学専攻（博士課程後期） 情報科学プログラム 入学定員10人 先進理工系科学研究科先進理工系科学専攻（博士課程前期） 情報科学プログラム 入学定員36人 情報科学部情報科学科 入学定員155人（編入定員5人を含む） 3月 情報科学部情報科学科及び工学部第二類（電気電子・システム情報系） 収容定員に係る大学全体の収容定員増の申請	R5年度自己評価 【3】計画を十分に実施している。
令和6年度	①マツダの「AI/Opsエンジニア育成特定プログラム」開設 ②ひろしまDX人材育成奨励金による支援開始 ③数理・データサイエンスAI教育プログラム応用基礎レベル教材をホームページ上で提供開始 ④「中国ブロック高専専門学校クオック」開校 ⑤マイクロン・エリヤパン等との特定プログラム協議に向けた協議開始 ⑥東京工業大学、豊橋技術大学との連携協定締結	①マツダの「AI/Opsエンジニア育成特定プログラム」開設 ②ひろしまDX人材育成奨励金による支援開始 ③数理・データサイエンスAI教育プログラムの応用基礎レベル教材をホームページ上で提供開始 ④「中国ブロック高専専門学校クオック」開校 ⑤マイクロン・エリヤパン等との特定プログラム協議に向けた協議開始 ⑥東京工業大学、豊橋技術大学との連携協定締結	R6年度自己評価 以下から選択してください。
令和7年度	【情報系組織の入学定員】<博士>10人、<修士>70人、<学士>255人 先進理工系科学研究科先進理工系科学専攻（博士課程前期） 情報科学プログラム 34人増員予定（入学定員70人） 工学部第二類（電気電子・システム情報系） 半導体システムプログラム設置予定（入学定員55人） 情報科学部情報科学科 45人増員予定（入学定員200人（編入定員20人を含む）） ①DXS棟（仮称）の新設工事（即年度）の実施 ②半導体システムプログラムのためのカウンシルム設置 ③「アリアナ国立大学」、「リテュー大学」の連携事業実施 ④半導体分野の教育体制の整備（准教授1名、助教1名の採用） ⑤DX分野の教育体制の整備（教授2名、准教授2名の継続雇用） ⑥DX分野の教育体制の整備（准教授2名の継続雇用） ⑦特定プログラム、CMOSプロセスコース、高等専門学校と共同研究、推薦入試対象校の拡大活動実施	【情報系組織の入学定員】<博士>10人、<修士>70人、<学士>255人 先進理工系科学研究科先進理工系科学専攻（博士課程前期） 情報科学プログラム 34人増員予定（入学定員70人） 工学部第二類（電気電子・システム情報系） 半導体システムプログラム設置予定（入学定員55人） 情報科学部情報科学科 45人増員予定（入学定員200人（編入定員20人を含む）） ①DXS棟（仮称）の新設工事（即年度）の実施 ②半導体システムプログラムのためのカウンシルム設置 ③「アリアナ国立大学」、「リテュー大学」の連携事業実施 ④半導体分野の教育体制の整備（准教授1名、助教1名の採用） ⑤DX分野の教育体制の整備（教授2名、准教授2名の継続雇用） ⑥DX分野の教育体制の整備（准教授2名の継続雇用） ⑦特定プログラム、CMOSプロセスコース、高等専門学校と共同研究、推薦入試対象校の拡大活動実施	R7年度自己評価 以下から選択してください。
令和8年度	【情報系組織の入学定員】<博士>10人、<修士>70人、<学士>255人 ①DXS棟（仮称）の新設工事（2年目）の実施 ②半導体システムプログラムのためのクラウド設置 ③マイクロン・エリヤパン等との特定プログラム協議 ④半導体分野の教育体制の充実（教授1名、助教2名の採用） ⑤半導体分野の教育体制の充実（教授2名、准教授2名、助教1名の継続雇用） ⑥DX分野の教育体制の充実（教授2名、准教授2名の採用） ⑦DX分野の教育体制の充実（准教授2名の継続雇用） ⑧「アリアナ国立大学」、「リテュー大学」の連携事業実施 ⑨特定プログラム、CMOSプロセスコース、高等専門学校と共同研究、推薦入試対象校の拡大活動実施	【情報系組織の入学定員】<博士>10人、<修士>70人、<学士>255人 ①DXS棟（仮称）の新設工事（2年目）の実施 ②半導体システムプログラムのためのクラウド設置 ③マイクロン・エリヤパン等との特定プログラム協議 ④半導体分野の教育体制の充実（教授1名、助教2名の採用） ⑤半導体分野の教育体制の充実（教授2名、准教授2名、助教1名の継続雇用） ⑥DX分野の教育体制の充実（教授2名、准教授2名の採用） ⑦DX分野の教育体制の充実（准教授2名の継続雇用） ⑧「アリアナ国立大学」、「リテュー大学」の連携事業実施 ⑨特定プログラム、CMOSプロセスコース、高等専門学校と共同研究、推薦入試対象校の拡大活動実施	R8年度自己評価 以下から選択してください。
令和9年度	【情報系組織の入学定員】<博士>10人、<修士>140人、<学士>265人 先進理工系科学研究科先進理工系科学専攻（博士課程前期） DX科学プログラム設置予定（入学定員70人） 工学部第二類（電気電子・システム情報系） 半導体システムプログラム 10人増員予定（入学定員65人（編入定員10人を含む）） ①半導体分野の教育体制の整備（教授2名、准教授3名、助教3名の継続雇用） ②DX分野の教育体制の整備（教授2名、准教授4名の継続雇用） ③海外大学の学生交流の実施 ④特定プログラム、CMOSプロセスコース、高等専門学校と共同研究、推薦入試対象校の拡大活動実施	【情報系組織の入学定員】<博士>10人、<修士>140人、<学士>265人 先進理工系科学研究科先進理工系科学専攻（博士課程前期） DX科学プログラム設置予定（入学定員70人） 工学部第二類（電気電子・システム情報系） 半導体システムプログラム 10人増員予定（入学定員65人（編入定員10人を含む）） ①半導体分野の教育体制の整備（教授2名、准教授3名、助教3名の継続雇用） ②DX分野の教育体制の整備（教授2名、准教授4名の継続雇用） ③海外大学の学生交流の実施 ④特定プログラム、CMOSプロセスコース、高等専門学校と共同研究、推薦入試対象校の拡大活動実施	R9年度自己評価 以下から選択してください。
令和10年度	【情報系組織の入学定員】<博士>10人、<修士>70人、<学士>255人 ①半導体分野の教育体制の整備（教授2名、准教授3名、助教3名の継続雇用） ②DX分野の教育体制の整備（教授2名、准教授4名の継続雇用） ③「アリアナ国立大学」、「リテュー大学」の連携事業実施 ④特定プログラム、CMOSプロセスコース、高等専門学校と共同研究、推薦入試対象校の拡大活動実施	【情報系組織の入学定員】<博士>10人、<修士>70人、<学士>255人 ①半導体分野の教育体制の整備（教授2名、准教授3名、助教3名の継続雇用） ②DX分野の教育体制の整備（教授2名、准教授4名の継続雇用） ③「アリアナ国立大学」、「リテュー大学」の連携事業実施 ④特定プログラム、CMOSプロセスコース、高等専門学校と共同研究、推薦入試対象校の拡大活動実施	R10年度自己評価 以下から選択してください。
令和11年度	【情報系組織の入学定員】<博士>15人、<修士>225人、<学士>265人 先進理工系科学研究科先進理工系科学専攻（博士課程後期） DX科学プログラム設置予定（入学定員5人） 先進理工系科学研究科先進理工系科学専攻（博士課程前期） 情報科学プログラム 15人増員予定（入学定員85人） 先進理工系科学研究科先進理工系科学専攻（博士課程前期） DX科学プログラム 15人増員予定（入学定員85人） 先進理工系科学研究科先進理工系科学専攻（博士課程前期） 半導体システムプログラム設置予定（入学定員55人） ①半導体分野の教育体制の整備（教授2名、准教授3名、助教3名の継続雇用） ②DX分野の教育体制の整備（教授2名、准教授4名の継続雇用） ③「アリアナ国立大学」、「リテュー大学」の連携事業実施 ④特定プログラム、CMOSプロセスコース、高等専門学校と共同研究、推薦入試対象校の拡大活動実施	【情報系組織の入学定員】<博士>15人、<修士>225人、<学士>265人 先進理工系科学研究科先進理工系科学専攻（博士課程後期） DX科学プログラム設置予定（入学定員5人） 先進理工系科学研究科先進理工系科学専攻（博士課程前期） 情報科学プログラム 15人増員予定（入学定員85人） 先進理工系科学研究科先進理工系科学専攻（博士課程前期） DX科学プログラム 15人増員予定（入学定員85人） 先進理工系科学研究科先進理工系科学専攻（博士課程前期） 半導体システムプログラム設置予定（入学定員55人） ①半導体分野の教育体制の整備（教授2名、准教授3名、助教3名の継続雇用） ②DX分野の教育体制の整備（教授2名、准教授4名の継続雇用） ③「アリアナ国立大学」、「リテュー大学」の連携事業実施 ④特定プログラム、CMOSプロセスコース、高等専門学校と共同研究、推薦入試対象校の拡大活動実施	R11年度自己評価 以下から選択してください。
令和12年度	【情報系組織の入学定員】<博士>15人、<修士>225人、<学士>265人 ①半導体分野の教育体制の整備（教授2名、准教授3名、助教3名の継続雇用） ②DX分野の教育体制の整備（教授2名、准教授4名の継続雇用） ③「アリアナ国立大学」、「リテュー大学」の連携事業実施 ④特定プログラム、CMOSプロセスコース、高等専門学校と共同研究、推薦入試対象校の拡大活動実施	【情報系組織の入学定員】<博士>15人、<修士>225人、<学士>265人 ①半導体分野の教育体制の整備（教授2名、准教授3名、助教3名の継続雇用） ②DX分野の教育体制の整備（教授2名、准教授4名の継続雇用） ③「アリアナ国立大学」、「リテュー大学」の連携事業実施 ④特定プログラム、CMOSプロセスコース、高等専門学校と共同研究、推薦入試対象校の拡大活動実施	R12年度自己評価 以下から選択してください。
令和13年度	【情報系組織の入学定員】<博士>30人、<修士>225人、<学士>265人 先進理工系科学研究科先進理工系科学専攻（博士課程後期） DX科学プログラム 5人増員予定（入学定員10人） 先進理工系科学研究科先進理工系科学専攻（博士課程後期） 半導体システムプログラム設置予定（入学定員10人） ①半導体分野の教育体制の整備（教授2名、准教授3名、助教3名の継続雇用） ②DX分野の教育体制の整備（教授2名、准教授4名の継続雇用） ③「アリアナ国立大学」、「リテュー大学」の連携事業実施 ④特定プログラム、CMOSプロセスコース、高等専門学校と共同研究、推薦入試対象校の拡大活動実施	【情報系組織の入学定員】<博士>30人、<修士>225人、<学士>265人 先進理工系科学研究科先進理工系科学専攻（博士課程後期） DX科学プログラム 5人増員予定（入学定員10人） 先進理工系科学研究科先進理工系科学専攻（博士課程後期） 半導体システムプログラム設置予定（入学定員10人） ①半導体分野の教育体制の整備（教授2名、准教授3名、助教3名の継続雇用） ②DX分野の教育体制の整備（教授2名、准教授4名の継続雇用） ③「アリアナ国立大学」、「リテュー大学」の連携事業実施 ④特定プログラム、CMOSプロセスコース、高等専門学校と共同研究、推薦入試対象校の拡大活動実施	R13年度自己評価 以下から選択してください。
令和14年度	【情報系組織の入学定員】<博士>30人、<修士>225人、<学士>265人 ①半導体分野の教育体制の整備（教授2名、准教授3名、助教3名の継続雇用） ②DX分野の教育体制の整備（教授2名、准教授4名の継続雇用） ③「アリアナ国立大学」、「リテュー大学」の連携事業実施 ④特定プログラム、CMOSプロセスコース、高等専門学校と共同研究、推薦入試対象校の拡大活動実施	【情報系組織の入学定員】<博士>30人、<修士>225人、<学士>265人 ①半導体分野の教育体制の整備（教授2名、准教授3名、助教3名の継続雇用） ②DX分野の教育体制の整備（教授2名、准教授4名の継続雇用） ③「アリアナ国立大学」、「リテュー大学」の連携事業実施 ④特定プログラム、CMOSプロセスコース、高等専門学校と共同研究、推薦入試対象校の拡大活動実施	R14年度自己評価 以下から選択してください。

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	広島大学
-------------	-------	-----	------

2.申請資格の確認

該当しない場合は、チェックしてください。

- i) 学生募集停止中の大学

該当無し	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------	--
- ii) 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による最近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学

該当無し	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------	--
- iii) 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学

該当無し	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------	--
- iv) 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学

該当無し	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------	--
- v) 大学、短期大学及び高等専門学校を設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する大学

該当無し	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------	--

3.申請要件の取組状況

令和5年度の取組が当初の計画通りに進んでいる、又はチェック項目に該当する場合はチェックしてください。計画通りに進んでいない、又はチェック項目に該当しない場合は右欄に課題（理由）とその対応を記載してください。

- ① 高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、学部を置かない大学や新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。

確認を受けている	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
対象に該当しない	<input type="checkbox"/> チェック
- ② 志願者数や入学定員及び収容定員充足率等を踏まえた十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。

計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------------	--
- ③ 産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育がキースタムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を確認する計画となっていること。（その際、国際的な資質保証の枠組みを活用するなど出口における資質保証にも十分留意することが重要。）

計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------------	--
- ④ 特定成長分野のうちデジタル分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。

計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------------	--
- ⑤ 計画の対象となる研究科・専攻等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。

計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------------	--
- ⑥ 特定成長分野のうち情報系分野に係る研究科・専攻、コース等の設置・増員（研究科・専攻の定員の増員を伴わないものを含む。）、専攻に係る課程の変更（研究科・専攻、コース等の設置・増員及び専攻に係る課程の変更に伴う学部、学科、コース等の設置・増員（学部、学科の定員の増員を伴わないものを含む。）（以下「研究科等」の設置等という。）による体制強化の計画であること。なお、コース等の設置・増員による体制強化の場合は、学則において、コース等の募集人員数を明記する計画であること。

計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------------	--
- ⑦ 社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る研究科等の設置等の取組であること。

計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------------	--
- ⑧ 教育の実施を有する情報系分野に係る研究科・専攻（授与する学位が、学位種類分野変更基準に定める理学関係、工学関係又は農学関係のいずれかを学位の分野として含むものに限る。）を有する大学において、高度情報専門人材を育成する計画であること。（大学（特例科）については、既設の情報系分野に係る学部、学科（授与する学位が、学位種類分野変更基準に定める理学関係、工学関係又は農学関係のいずれかを学位の分野として含むものに限る。）を有する大学とする。）

既設の情報系分野に係る研究科等を有する	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
---------------------	--
- ⑨ 機構による事業計画の進捗があった日から2年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる研究科等の設置等を行う計画であること。

計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------------	--
- ⑩ 計画の対象となる研究科等の設置等において、大学院修士課程（博士前期課程を含む。）15人以上又は大学院博士課程（博士後期課程を含む。）5人以上の入学生員の増員を行う計画であること。

計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------------	--
- ⑪ 国立大学について、大学全体の収容定員の増員を伴う学部定員の増員を行う場合は、国立大学法人の第5期中期目標期間終了時までに他学部・他学科を中心に同規模の定員減を行う計画であること。

計画通りに進んでいる、又は対象に該当しない	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
-----------------------	--
- ⑫ 教員の確保・配置状況等を踏まえた実現可能性の高い計画となっていること。

計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------------	--
- ⑬ 文部科学省が実施する教育・デジタルイノベーション「教育プログラムの認定制度」における「応用基礎レベル」について、大学又は計画の対象となる学部等（これは計画の対象となる研究科に関連する主な学部）が認定を受けている、又は認定を受ける計画があること。なお、学部を置かない大学で、本認定制度の対象に該当しないものについては、本要件は適用されない。

認定を受けている、又は対象に該当しない	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
認定を受ける計画が進んでいる	<input type="checkbox"/> チェック
- ⑭ 文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。

認定を受けておらず申請する意向もない	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
--------------------	--

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	広島大学
-------------	-------	-----	------

③ 連携企業等からの寄附等、外部資金の持続的な獲得が見込める計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
情報科学及びDX科学分野では、令和5年度が広島県の協賛型奨学金「ひろしまDX人材育成奨学金」で毎年50名に達する年度を迎え、1,000名超のDX人材育成・確保推進学協会協力をめし、高度情報専門人材の地元定着の促進に努めている。情報推進企業との連携は、過去3年で12件の受託研究、民間企業技術者や行政職員を対象とした社会人スキル教育を行った。令和5年度も新たに社会人スキルコースを開発した。このような活動を通じて、外部資金の持続的な獲得が見込める。半導体システムでは、日本半導体連理ネットワークUPWARDS for the futureにおける取組でMicon Technology Inc. が出資することになり、日米大学の学生交流、研究交流、国際共同研究の推進など、高度情報専門人材を育成する。Micon Technology Inc.、特許女子学生の支援の強化も掲げ、学部入学時女子学生向け、その中の成績優秀者に奨学金を給付することを検討する。	令和5年はひろしまDX人材育成奨学金の支給を情報科学部50名の学生に支給した。また、広島県からの受託により令和5年度は25.2名追加で奨学金を支給することが出来た。令和5年度の新規受託研究は1件であり、令和6年度も継続して企業との共同研究を進捗する。また、令和5年度は延べ177名が参加した社会人スキルコースを開発し、地場における産業界の技術水準の向上に寄与した。UPWARDS関連で、学部1・2年生10名がバテュー大学を訪問し、1週間講義や半導体関連設備の見学を行った。週末前には、広大で半導体の基礎知識に関する講義を行っている。次年度には、この特約校でバテュー大学からの交流生を受け入れる予定である。	

④ 高度情報専門人材を育成する大学・高等専門学校において質の高い教育を行う教員を養成・輩出する取組（当該分野の大学教員等の育成）を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
情報科学及びDX科学分野では、「富士通次世代コンピューティング共同研究講座」における共同研究を通じて、D学生や若手研究者の育成に努める。半導体システムでは、バテュー大学の日米連携の枠組みで国際共同研究を行い、国際学会発表、論文執筆の機会を創出す。博士号取得後は、連携先大学のポストドクトラールとして有給雇用する態度を立上り、国際共同研究の100%アウトプット推進人材の倍増的な育成を計画している。また、本学では、D学生を対象とした教育能力を身に付けたい取組（PFI-FD）として、三期間TA制度を活用し、実践的な教育経験の機会を提供するとともに、FD委員会教育能力開発委員会が提供する新任教員研修プログラムをD学生も開放し、学歴を教養するために必要となる能力を伸ばすための機会を提供している。	「富士通次世代コンピューティング共同研究講座」の活用が本格化し、学内での各種講演会を開催することでバテュー大学分野における先進的な教育・研究を推進している。特に、富士通社員による集中講義を開催することで、企業で実践されている次世代計測の研究推進や学協会を提供している。富士通からの社員が本学に常駐し、教員や博士課程の学生の共同研究を実施中である。国際共同研究については、バテュー大学が行う半導体大規模共同研究について、米国NSFへの申請に参加し、採択されれば共同研究を行うことになっている。今後、論文数増加と共同研究に伴う人材交流を行う。	

⑤ 連携企業等から実務経験のある人材の大学への派遣、学生が連携企業等においてインターンシップを実施する体制の構築、連携企業等との共同研究実施が見込める計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
現在、情報科学分野は名の実務経験者内定が、情報科学分野は、デジタル技術の応用に関する教育・研究を行うため、各層層する計画であり、DX推進に際する専門教育を広く展開する。半導体システムでは、Micon Technology Inc. などの半導体関連企業とE&Eパート人材を2名迎え入れ、先進的な半導体産業に関連した内容の講義を行う。情報科学及びDX科学分野では、アリゾナ州立大学大大学院で行われている専門科目や博士課程を本学で学ぶ。高度デジタル技術の導入、開発に備える人材育成を、インターンシップが大学連携企業に連携する。例えば、本学学生は「バテュー大学教育研究協力型インターンシップ」が出来るようになる。また、社内で半導体共同ワークショップを企画し、M・O・S 5年一歩大専学入学期に希望する学生には優先的に奨学金（Micon資金）の給付やインターンシップなどを準備し、博士号取得者の増加を図る。	令和6年度の7人の新規教員の雇用について確定でき、情報科学分野における教育体制を強化することができた。実務経験者については、引続き3人の客員教授の雇用を行い、企業との共同研究、社会人スキル教育のサポートを行った。DX科学ワークショップの開設は令和8年度であり、開設時期に合わせて3人程度の教員の補充を行うことが計画されている。アリゾナ州立大学の連携については、これまで2回の訪問を行い、令和6年から毎年2人の教員を短期招聘し、本学大学院生向けの高度な教育を実施する集中講義を開催することになった。また、令和6年度は本学より5名、高度デジタル技術の導入、開発に備える人材育成を、インターンシップが大学連携企業に連携する。例えば、本学学生は「バテュー大学教育研究協力型インターンシップ」が出来るようになる。また、社内で半導体共同ワークショップを企画し、M・O・S 5年一歩大専学入学期に希望する学生には優先的に奨学金（Micon資金）の給付やインターンシップなどを準備し、博士号取得者の増加を図る。	

⑥ 他大学等での学生も参加できる情報教育プログラムの実施や教材作成を含む質の高い取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
情報科学及びDX科学分野では、AIOPSシニア育成特定プログラム「AIOPS」を提供し、大学院を有する近隣他大学との教材開発や連携推進などの大学院生E&Eパート人材教育での連携を推進する。「ひろしまDX人材育成・確保推進学協会」や「中国プログラムの投資事業」の活動を連携し、大学院を有する他大学の連携を進める。特に、中国5校の他国大学と共通の講座の開設、教員の相互派遣、連携企業との相互協力を進め、地域全体で実務的な大学教育の取組を進めたい。半導体システムでは、1/半導体専門学校連携と連携し、専攻学生への最新の研究動向の紹介や、本学教員と高等専門学校の共同研究、高等学生を参加させる取組を行っている。令和4年度には、富山高等、新設富山高等、宇部高等、徳山高等、宇部高等、高専富山等半導体に関する最新の研究動向の紹介セミナーを開催し、富山高等、新設富山高等、宇部高等、高専富山等、久米田高等教員との学術共同研究を行った。今後は中国5校に向けての取組を拡充させる。	AIOPSシニア育成特定プログラム（後開講し、本学大学院生への登録があった。また、同じ教材を活用し、（株）マツダの社内スキル教育を実施し、16名の受講者があった。また、令和5年12月にMDASH拠点会議に出陣し、全国で開催されているE&Eパート人材教育の内部について情報交換を行い、本学の取組内容に反映することを計画した。近隣他大学の連携では、令和5年度は富山下の私立大学（徳山大学、富山大学、富山大学、広島大学）と共同でデジタルスキル教材開発を行い、教材・データ・AIOPS-AI講義の導入やデジタルスキル認定講座の開催に協力した。また、中国プログラムの他大学は、令和5年度に2回のセッションと3回のワークショップを開催し、デジタルスキルと応用基礎レベル教育の内容や教材の相互利用について協議し、その最初のステップとして、本学で開発した教材をホームページ上で公開できるようにした。他国大学との共通講座の開設や教員の相互派遣については、多岐の決まりや課題があることが判明したが、中国産業界との連携を通じて、各大学の要望に応じて企業からの講師派遣を依頼するフレームワークを構築し、各大学の特色に応じた実務教育が行えるような仕組みを導入した。半導体関係では、国立高等専門学校機構と連携し、高等学生への最新の研究動向の紹介や、本学教員と高等専門学校の共同研究に高等学生を参加させる取組を行った。令和5年度も、富山高等、新設富山高等、宇部高等、徳山高等、宇部高等、高専富山等半導体に関する最新の研究動向の紹介セミナーを開催し、富山高等、久米田高等教員との学術共同研究を行った。	

5-1. 大学院（修士課程、博士課程）における学生の研究活動実績

令和5年度 大学院在籍学生の論文の採択、受賞状況や各コンペティション等の受賞状況、筆頭著者論文数等、学生の研究活動実績を記載してください。

<p>(例) 先進理工系科学研究科先進理工系科学研究情報科学プログラム（修士課程前期） 学術誌採択論文(査読付き) 6本 (35、筆頭著書論文2本) コンペティション受賞 13件 (15、論文8件、ポスター発表1件、プレゼンテーション1件、アワード開発1件、その他2件)</p>

5-2. 大学院（修士課程、博士課程）における学生の卒業後の進路状況

令和5年度 大学院卒業者の卒業後の進路状況に記載してください。就職先企業名や研究機関名、業種、職種、定期的なデータ等を示し、具体的に記載してください。

令和5年度先進理工系科学研究科先進理工系科学研究情報科学プログラム卒業生63人（大学院修士課程前期の進学9名、就職44名、その他5名）
 主な就職先は、NTT西日本、シャープ、マツダ、マイドゥ、日立製作所、ソフトバンク、野村総合研究所ほか、業種は、製造業（8名）、情報通信業（31名）など。

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	広島大学
-------------	-------	-----	------

指摘事項等に対する対応状況を記載してください。

区分	指摘事項等	対応状況
選定時留意事項（R5年度）	大学院において現在外国人留学生の比率が高く日本人学生の比率が低い中で、本事業の目的である我が国における高度情報専門人材の確保にどのように貢献していくか、学生確保や進路選択支援を含めた戦略の構築が求められる。	大学院において高度な情報知識・スキルを獲得した学生を獲得することは容易ではないが、本学では令和5年に学部入学定員70人、令和7年には学部入学定員30人、編入学定員15人を増員し、一学年200人体制で学部教育を実施することが計画されている。よって、大学院の大幅な入学定員増は学部の入学定員増とリンクした形で可能となり、令和11年には情報科学プログラム、DX科学プログラム（新設）の両プログラムで170人の入学を見込んでいる。上記の2つの大学院プログラムに改組することで、理論重視の教育プログラムと実践的スキルを獲得する教育プログラムに拡充し、様々な産業界で活躍する高度情報人材、高度DX推進人材を育成・輩出を目指している。また、アリゾナ州立大学との連携により、国際的に高い水準の研究・教育を実践し、留学制度等を活用した国際人材の育成にも着手する。
選定時留意事項（R5年度）	学生確保の多様性に配慮した、より積極的・効果的なアクションが求められる。	情報科学部では女子学生比率が15%程度にとどまっていることから、令和7年度からは学校推薦型選抜（地方創生枠）に女子枠（15人）を導入する。さらに、同年度より、工業高等専門学校専攻科卒業予定者の推薦入試の実施も計画しており、情報科学の分野で多様性のある人材を輩出するための取組を開始する。

大学名	広島大学	改組内容	研究科等の設置・増員 + 学部等の設置・増員 (ハイレベル枠)
-----	------	------	---------------------------------

3-3. 学士課程

年度		R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	
大区分	小区分	項目	単位																		
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	2,386	2,386																
		入学者数	人	2,471	2,463																
	その他の学期	入学定員	人	***	***																
		入学者数	人	***	***																
	入学者合計	入学定員 (A)	人	2,386	2,386	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		入学者数 (B)	人	2,471	2,463	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		入学定員充足率 (B/A)	倍	1.04	1.03																
	収容定員等	収容定員 (C)	人	9,976	10,024																
		編入学定員	人	80	80																
		在籍者数 (D)	人	10,612	10,645																
		編入学者数	人	56	40																
		収容定員充足率 (D/C)	倍	1.06	1.06																

4. 外部資金の状況 (全学)

年度		R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	
大区分	小区分	項目	単位																		
競争的外部資金等の状況	全体	研究者数	人	2181	2241																
		外部資金獲得額	千円	16,098,727																	
	共同研究	実施件数	件	589																	
		実施件数 (民間企業からのみ)	件	538																	
		受入額	千円	1,989,821																	
		受入額 (民間企業からのみ)	千円	1,737,250																	
	受託研究	実施件数	件	584																	
		実施件数 (民間企業からのみ)	件	186																	
		受入額	千円	3,876,920																	
		受入額 (民間企業からのみ)	千円	259,763																	
	寄附金	実施件数	件	8109																	
		実施件数 (民間企業からのみ)	件	534																	
		受入額	千円	3,532,324																	
		受入額 (民間企業からのみ)	千円	427,583																	
	その他	受入額 (上記に当てはまらないもの)	千円	6,699,661																	

特記事項

「様式2-4-2_修士」の「1. 本事業対象となる情報系組織の状況」における「その他の学期」の入学定員については、「春季入学」の入学定員を満たせなかった人数を募集しているため、若干名の募集ではないが、ゼロを記入。
「様式2-4-2_b」の「3. 大学全体の状況」の修士課程における「その他の学期」の入学定員については、「春季入学」の入学定員を満たせなかった人数を募集しているため、若干名の募集ではないが、ゼロを記入。
「様式2-4-2_b」の「3. 大学全体の状況」の博士課程における「その他の学期」の入学定員については、明確に入学定員を設けているのは大学院人間社会科学部研究科広島大学・グラーツ大学国際連携サステナビリティ学専攻の2人と大学院先進理工系科学研究科広島大学・ライプツィヒ大学国際連携サステナビリティ学専攻の2人の計4人だけであり、その他は「春季入学」の入学定員を満たせなかった人数を募集しているため、入学定員4人に対して入学者が175人となっている。